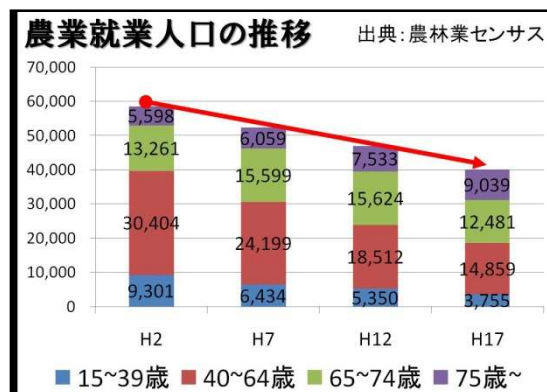


② 高校1年生発表（農業 de 鶴の恩返し作戦！！）

生徒： 僕たちは高知県の農業を活性化させるプランについて考えました。高知県の一番の強みは、農業などの農林水産業であると思います。全体的に産業基盤の弱い高知県の中で、外貨を獲得できる産業として大変重要な位置を占めているのではないのでしょうか。そこで僕たちは、高知県の農林水産業を活性化させることが必要であると考えています。

高知県の農林水産業の現状は、近年になるにつれて、農業就業人口が大幅に減り、40歳未満の農業就業人口は、平成2年と平成17年を比べると約3分の1にまで減っています。林業・漁業についても同様に担い手が不足しているのが現状です。この現状を打破するには、農林水産業の若年層の担い手を増やすことが必要です。



そこで、僕たちの考えたアクションプラン、名づけて「鶴の恩返し作戦」です。このプランは、産業振興学生という、高知大学農学部の入学者20名の4年間の授業料を全額免除する代わりに、卒業後10年間は高知大学・高知県と連携し、高知県の産業を発展させるために貢献してもらいます。それを実現するには、生産者・高知県・高知大学で連携し、一つのサイクルをつくります。大学にいる4年間は、高知県・生産者と連携して新しい技術を開発し、卒業後10年間は高知大学・高知県と連携して付加価値の高い商品を作り、高知県だけのブランドとして全国へ売り出していきます。そうすることによって高知県の産業が活性化すると同時に、農業の若年層の担い手不足も解消されます。

僕たちの考えた具体例として、高知県の農産物に使う農業肥料の開発や海洋深層水ナスに続く、海洋深層水商品の開発があります。

また、この計画に伴う予算として、高知県が負担する産業振興学生の授業料は一人当たり、高知大学4年間の授業料である約200万円。産業振興学生の人数を20人と考えると約4,000万円かかります。とても大きな金額に見えますが、高知県の農業が活性化されたり、担い手が増えることを考えると、この金額は大きくないのではないのでしょうか。これが実現すると、産業振興学生が高知で農業従事者になり、高知県の農業を活性化させることができます。

知事： 1年生の皆さん、どうもありがとうございました。農業の担い手が不足しているというお話はポイントの中のポイントで、ものすごく大切な課題だと思います。今のまま農業・林業・水産業の人口がどんどん減って、担い手がいなくなると、

10年後には一次産業こそ高知県の強みだとさえ言えなくなるかもしれない、これが最大の危機感です。だから、農業の就業人口を増やすべしということで、徹底して取り組みを進めなければと思っています。こういう政策も面白いと思います。これからぜひ掘り下げて、研究してもらいたいと思います。

また有効求人倍率が0.5で2人に一つ分しか職がない状況にもかかわらず、なぜ農林水産業の就業人口は減ってしまったのかがポイントだと思います。一つは、農業自体が今まで脚光を浴びることがなかった。もう一つ、農業をするためには土地と高度な技術が要ります。お百姓とは、百の技術を持っている人という意味らしいです。空を見て天気を読む、草の生育で、その植物の有り様を見ることができて、いろんな害虫のことも知っていて、土のことも分かる。気象学、生物学、そして経営が分かるから百姓ができる。農業は、参入障壁が高く、新しく就こうとするのがすごく大変な産業ですが、この人口を増やしていかないといけません。

今、一生懸命実施している政策は、農業に就こうとする人に徹底して技術を教えよう、その間の生活費を支払いましょう、空いている土地を紹介しましょう、地域のコミュニティに溶け込めるように斡旋をしましょう、ビニールハウスを新しく作る時にお金も貸しましょう、というものです。去年まで新しく就農する人は110人ぐらいしかいなかった。今年こういう政策をやり始めて160人就農してくれることになり、就農人数が増えるようになった。生活ができるから農業に就こうという人が出てくるのが一番大切なことだけど、こういう担い手対策もあって、農業に就いてくれる人を増やそう、将来消えてしまうなんてことは絶対ないように取り組んでいるところです。